

14)渡邊清高 みんなでつくる、地域で支える、がん患者さんの支援の輪を広げるために  
「患者必携」地域での取り組みに向けて 港区在宅緩和ケア研究会 2011.3.5.

知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし
3. その他  
なし

## 分担研究報告

厚生労働科学研究費補助金 がん臨床研究事業  
平成 22 年度 分担研究報告書

栃木県における患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究

研究分担者 清水秀昭 栃木県立がんセンター 病院長  
研究協力者 吉成朋子 栃木県立がんセンター 相談研修課  
長野泰恵 栃木県立がんセンター 相談研修課  
児玉哲郎 栃木県立がんセンター 所長

研究要旨

研究要旨 都道府県がん診療連携拠点病院である栃木県立がんセンターにおいて、「患者必携」の周知・普及のため市民公開講座『がん「患者必携」－栃木の取り組み－』を栃木県および本研究班の共催で開催した。参加者を対象にしたアンケート調査結果から地域の特性に応じた患者支援に資する情報提供モデルの作成と連携構築を目指すという企画の意義は認められた。また、その内容についてホームページや DVD を介して県内の関係機関などに情報提供を行った。今後、「患者必携：地域の療養情報 試作版（栃木）」の改訂作業を通して、患者支援のための地域ネットワーク構築を図っていく。

A. 研究目的

本分担研究は、栃木県における都道府県がん診療連携拠点病院として地域における『がん「患者必携」』（以下、「患者必携」とする。）の配布・普及などを評価することを目的としている。すなわち、関連する研究班である「患者・家族・国民の視点に立った自立支援型がん情報の普及のあり方に関する研究」において、前年度は栃木県をひとつのモデル地域として「患者必携」試作版を試験配布し、その意義などについてアンケート調査にて評価した。

本年度は、完成版の作成作業に並行して栃木県において周知・普及のために市民公開講座を開催し、試作版配布の効果・栃木県における活動を説明すると共に参加者へのアンケート調査を行い、その意義について評価した。また、がん患者・家族を支援する立場にある関係者に向けて情報提供を行い、その意義について検討した。さらに、「患者必携」完成版を用い、がん患者・家族や医療者が使用することに関する評価のアンケート調査計画や「患者必携：地域の療養情報 試作版（栃木）」の改訂作業を通して、患者支援のためのがん情報地域ネットワーク構築についても検討を加えた。

B. 研究方法

(1) 市民公開講座『がん「患者必携」－栃木の取り組み－』の開催と記録

①市民公開講座開催設定と記録の発信

i) 栃木県立がんセンターホームページ (HP) での公表

本公開講座は「(がん臨床研究事業) 地域にお

けるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班」と栃木県との共催で行う企画で計画され、栃木県医師会・病院協会・看護協会・薬剤師会に後援を依頼した(資料①)。開催通知は県健康増進課が地元紙掲載を含め、一般および関連施設に対して行った。参加申込受付は同担当と栃木県立がんセンター(以下、「栃がん」とする。)相談研修課が行った(資料②)。また、栃がん HP でも提示した

<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/other/18.html>。

ii) 参加者へのアンケート調査

アンケート調査(資料③ アンケート調査用紙)は研究班および栃木県が分担した。

(倫理面への配慮)

無記名でのアンケートであること、アンケートへの回答は自由であることを説明し、同意書に署名を行う対応とした。

iii) 文書・動画での記録

文書・動画記録は研究班および栃木県が分担した。

(2) 地域・院内に向けて「患者必携」の周知・普及

①地域保健福祉等関係職員研修会

i) 県南健康福祉センター研修会

ii) 県東ケアサービス関係職員研修会

「患者必携」周知および在宅療養支援者との連携を目的とした講演研修後にアンケート調査を施行した。

②栃木県がん診療連携協議会「相談支援部会」における説明  
定期開催の相談支援部会において周知・協力を図った。

③院内への周知

「患者必携」見本版などの配布に合わせ計画した。

### (3) 次年度に向けた取り組み

①アンケート調査による評価

アンケート調査協力を前提として、対象を患者・家族、医師、コメディカルとして「患者必携」を配布し、アンケート調査を行う。

②「地域の療養情報」改訂に向けた取り組み  
栃木県に特化したホームページ『がん情報とちぎ』を立ち上げ、「地域の療養情報」の改訂を検討する。

## C. 研究結果

(1) 市民公開講座『がん「患者必携」－栃木の取り組み－』の開催と記録

①市民公開講座開催設定と記録の発信

i) 栃木県立がんセンターHPでの公表

2010年11月7日に開催された。『がん「患者必携」栃木の取り組み』としてHP

<http://www.tcc.pref.tochigi.lg.jp/other/19.html>

で供覧可能とした。

ii) 参加者へのアンケート調査結果(資料④)

参加者は189名であった。内訳は、一般76名、医療従事者(介護従事者含む)49名、教育機関(学生・職員)43名、行政4名、スタッフ17名であった。アンケート調査には76名からの回答があった。「講演会の周知方法(複数選択あり)」は、「チラシ」26名、「人から聞いた(先生、職場の上司等)」23名、新聞10名、ポスター9名などであった。「講演会の内容」は「大変役に立った」「役に立った」が30%、62%であった。「現在又は過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方の有無」は「あり」82%であった。自由記載では、基調講演のうち「がん患者/ジャーナリストの立場から：乳がん闘病体験から考える患者支援と最近のがん対策の動き」読売新聞社会保障部 本田麻由美 記者の講演に対して「Cancer Survivorshipや患者自分自身のAdvocacyなど共感や学びを受けた」というように多くの反響がみられた。また、「患

者必携」の目的は、あくまで患者おのおのが自分の病について必要な情報を集めるためのものであり、医者と患者とのコミュニケーションを媒介し、患者自身が学び成長してクオリティーオブライフを高めていくための第一歩であると感じた。」という深い理解を示した意見もあった。

iii) 文書・動画での記録

全体177分のビデオ(DVD版)に編集した(資料⑤)。しかし、栃木県立がんセンターHPにはシステム上収載不可能であり、関係施設(栃木県拠点病院相談支援センター、県内健康福祉センターなど)に郵送配布した。班会議でも患者・家族へ情報提供あるいは県庁との協働事業を提示する目的のため希望される班員施設があった。

(2) 地域・院内に向けて「患者必携」の周知・普及

①地域保健福祉等関係職員研修会

i) 県南健康福祉センター研修会

2010年11月04日に行われた。講演研修後にアンケート調査を施行し、参加者30名から回答があった。職種は看護師17%、保健師63%、介護支援専門員20%であった。内容・活用に関する感想などには、「“患者必携”を使用しながら患者、家族、主治医、訪問看護等サービス事業所の担当者とも連携を図り支援できると思った。」「がん相談支援センターの存在と場所の情報が得られた」などがあった。

ii) 県東ケアサービス関係職員研修会

2010年12月9日に行われた。講演研修後にアンケート調査を施行し、参加者65名から回答があった。参加者の勤務事業所別は居宅介護保険関係72%、地域包括支援センター11%などであった。自由記載では、「がんセンターが身近に感じ、医療連携の強化をしていきたい。ケアマネとして足を運びたい。」「顔の見える関係ができたと思う。」など連携強化につながる意見があった。

②栃木県がん診療連携協議会「相談支援部会」における説明

2010年7月7日および2011年1月20日に平成22年度第1回および第2回相談支援部会が開催された。本研究班の経過概要と「試作版」試験配布の結果について説明が行われた。また、

「地域の療養情報 栃木版」の改訂の必要性について説明と協力依頼がなされた。

### ③院内への周知

2011年2月に「患者必携」見本版ががん診療連携拠点病院あてに送付された。3月に予定されていた書店などでの市販本の販売に合わせ、患者・家族よりの質問に備えて常勤医師・研修医全員および関係部署に配布するとともに、相談支援センターや患者図書室「こやま文庫」で閲覧可能な状態とした。

### (3) 次年度に向けた取り組み

#### ①アンケート調査による評価

アンケート調査協力を前提として患者に「患者必携」市販本を無料提供し、「患者必携」を使用することで活用度などに関する患者による評価と医師による臨床情報を組み合わせ総合評価する。また、患者・家族支援者であるコメディカルを対象にした研修会において「患者必携」の使い方の実践をワークショップ形式で行い、研修後のアンケート調査により支援ツールとしての有効性や改善点などを評価する。

②「地域の療養情報」改訂に向けた取り組み  
栃木県におけるがん情報をインターネットにて提供するために栃木県に特化したホームページ『がん情報とちぎ』を立ち上げる(資料⑥)。その一環として「地域の療養情報」の改訂版をホームページ上に提示すると共に、状況に応じて冊子形式の印刷を検討する。その情報収集・作成にあたり相談支援部会にとどまらず、がん患者会や一般市民などの意見を集える場の設定を計画する。

### D. 考察

2007年(平成19年)4月にがん対策基本法が施行され、それを受け同年6月にがん対策推進基本計画が策定された。基本計画を実行すべくがん対策推進協議会が立ち上げられ、種々の事項について検討が行われた。それらの中に「インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等ががん診療を行っている医療機関に提供していく」ことが提言された。国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部(「効果的ながん情報発信

と活用のための支援と整備」がプロジェクトの1項目)がそれを受け『がん「患者必携」』作成・配布の政策的事業が開始された。同時にこれら事業が効果的・効率的に行われるように支援・評価・提言を行うために主任研究者の研究班が立ち上げられた。支援の具体的内容として、国民の不足感が強いがん医療に関して、病気や治療に対する患者自身の理解を助けることに加え、刻一刻と生じる不安や疑問に対して自発的に対応できるための意志決定と自立支援に関わる情報提供等を行うことにより、日本全国のがん患者に質の高いがん医療を普及させることである。本年度の分担研究は昨年度の「試作版」の試験配布を通してのアンケート調査をもとに、栃木県内のがん情報ネットワーク構築を行い、周知・普及対象を広げることとその評価を目標に策定された。

市民公開講座『がん「患者必携」—栃木の取り組み—』の開催は、「(がん臨床研究事業)研究班」と栃木県との共催で行う企画で計画され実行できたことは一つの地域モデルの提示と考えられた。参加者の反響も基調講演者の提言に対して「共感や学びを受けた」とおおむね良好であった。また、「患者必携」の配布・普及目的のひとつである自立支援という意図に対しても深い理解を示した意見もあった。

地域での情報ネットワーク構築については、相談支援部会では引き続き班研究の進捗状況や共同研究に関する情報を流すことで意識づけが継続されていた。また、二次医療圏健康福祉センターにおける研修会を媒体としたがん情報提供を行うことを県健康増進課と連携できたことも地域モデルになっていると考えられた。

次年度に向けた取り組みとしては研究班との共同研究として、アンケート調査協力を前提として患者に「患者必携」市販本を無料提供し、「患者必携」を使用することで活用度などに関する患者による評価と医師による臨床情報を組み合わせ総合評価する方法や患者・家族支援者であるコメディカルを対象にした研修会では、単なる講演会ではなく「患者必携」に触れ、使用することで今後の活用まで踏み込んだ形式とし、アンケート調査を行うことで支援する側の視点もみえるような工夫が必要と思われる。さらに、「地域の療法情報」の改訂を通してさらなるがん情報ネットワーク構

策が図られるよう目指す努力が必要である。

#### E. 結論

市民公開講座『がん「患者必携」－栃木の取り組み－』の開催は、「(がん臨床研究事業)研究班」と栃木県との共催で行われた。また、二次医療圏健康福祉センターにおける研修会を媒体としたがん情報提供を行うことを県健康増進課との連携で行われた。これらは栃木県内のがん情報ネットワーク構築を行い、周知・普及対象を広げることが目標とするひとつの地域モデルになっていると考えられた。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

なし

##### 2. 学会発表

なし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許の取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

# みんなで作ろう、地域で支えよう、 がん患者さん支援の輪

がん患者必携 栃木の取り組み

2010年 11月7日(日)

開演 13:00～(開場 12:30～)

会場 栃木県立がんセンター 講堂

対象 栃木県民 (一般市民、医療従事者ほか)



## 参加要項

参加をご希望の方は、参加申込書にご記入のうえ、FAXでお申し込みください。

(定員になり次第、申込み受付を締め切らせていただきます。)

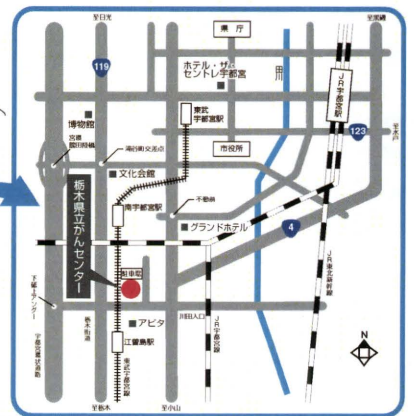
- 定員 150名
- 参加費 無料
- 申込期限 平成22年10月22日(金)
- お問合せ・申込先

栃木県保健福祉部健康増進課生活習慣病医療担当

TEL 028-623-3095 FAX 028-623-3920

栃木県立がんセンター相談研修課 (がん情報・相談支援センター)

TEL 028-658-6484 FAX 028-658-5297



## プログラム

開会の挨拶 加藤 和英 (栃木県保健福祉部 健康増進課長)

進行係 松本 秀一 (栃木県保健福祉部健康増進課)

### 第1部

(13:05 ~ 14:45)

#### 基調講演

「地域社会でのがん患者支援」

司会 児玉 哲郎 (栃木県立がんセンター 所長)

#### 経過説明

「みんなで作る、地域で支える、  
がん患者さんの支援の輪を広げるために」

渡邊 清高 (国立がん研究センターがん対策情報センター 室長)

都道府県がん診療連携拠点病院の立場から

「栃木県立がんセンターとしての取り組み」

清水 秀昭 (栃木県立がんセンター 病院長)

サポートの立場から

「地域がん診療連携拠点病院 相談支援センターの  
活動を通して」

寺脇 立子 (上都賀総合病院 医療ソーシャルワーカー 兼 がん相談員)

がん患者/ジャーナリストの立場から

「乳がん闘病体験から考える患者支援と  
最近のがん対策の動き」

本田 麻由美 (読売新聞社会保険部 記者)

..... 14:45 ~ 15:00 休憩 .....

### 第2部

(15:00 ~ 16:00)

ディスカッション/  
会場との質疑応答

「がん患者と医療者の合い言葉

**患者必携**」

司会 渡邊 清高

メンバー：本田 麻由美、寺脇 立子、  
渡辺 晃紀 (健康増進課)、  
清水 秀昭

コメンテーター：河野 順子  
(栃木県看護協会 会長)

閉会の挨拶 児玉 哲郎

共催 栃木県

厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業) 地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班

後援 栃木県医師会 栃木県病院協会 栃木県看護協会 栃木県薬剤師会

# みんなで作ろう、地域で支えよう、 がん患者さん支援の輪

がん **患者必携** 栃木の取り組み

2010年 11月7日(日)

開演 13:00～(開場 12:30～)

会場 栃木県立がんセンター 講堂

対象 栃木県民 (一般市民、医療従事者ほか)

## 参加要項

参加をご希望の方は、参加申込書(裏面)にご記入のうえ、FAXでお申し込みください。

(定員になり次第、申込み受付を締め切らせていただきます。)

- 定員 150名
- 参加費 無料
- 申込期限 平成22年10月22日(金)
- お問合せ・申込先

栃木県保健福祉部健康増進課生活習慣病医療担当  
栃木県立がんセンター相談研修課 (がん情報・相談支援センター)  
(電話・FAX番号は裏面をご覧ください)



共催 栃木県  
厚生労働科学研究費補助金 (がん臨床研究事業)  
地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する  
介入モデルの作成に関する研究班

後援 栃木県医師会  
栃木県病院協会  
栃木県看護協会  
栃木県薬剤師会

## プログラム

進行係 松本 秀一 (栃木県保健福祉部健康増進課)

開会の挨拶 加藤 和英  
(栃木県保健福祉部 健康増進課長)

### 第1部 基調講演 「地域社会でのがん患者支援」

(13:05 ~ 14:45) 司会 児玉 哲郎  
(栃木県立がんセンター 所長)

経過説明

「みんなで作る、地域で支える、  
がん患者さんの支援の輪を広げるために」  
渡邊 清高  
(国立がん研究センターがん対策情報センター 室長)

都道府県がん診療連携拠点病院の立場から

「栃木県立がんセンターとしての取り組み」  
清水 秀昭 (栃木県立がんセンター 病院長)

サポートの立場から

「地域がん診療連携拠点病院  
相談支援センターの活動を通して」  
寺脇 立子  
(上都賀総合病院 医療ソーシャルワーカー 兼 がん相談員)

がん患者/ジャーナリストの立場から

「乳がん闘病体験から考える  
患者支援と最近のがん対策の動き」  
本田 麻由美 (読売新聞社会保障部 記者)

..... 14:45 ~ 15:00 休憩 .....

### 第2部 ディスカッション/ 会場との質疑応答 「がん患者と医療者の合い言葉 **患者必携**」

(15:00 ~ 16:00)

司会 渡邊清高  
メンバー：本田 麻由美、寺脇 立子、  
渡辺 晃紀 (健康増進課)、  
清水 秀昭  
コメンテーター：河野 順子  
(栃木県看護協会 会長)

閉会の挨拶 児玉 哲郎



# FAX:028-658-5297

参加申込

## みんなでつくろう、地域で支えよう、 がん患者さん支援の輪

がん患者必携 栃木の取り組み

この用紙に必要事項  
を記入し、FAXで  
お申し込みください。

### 申込書

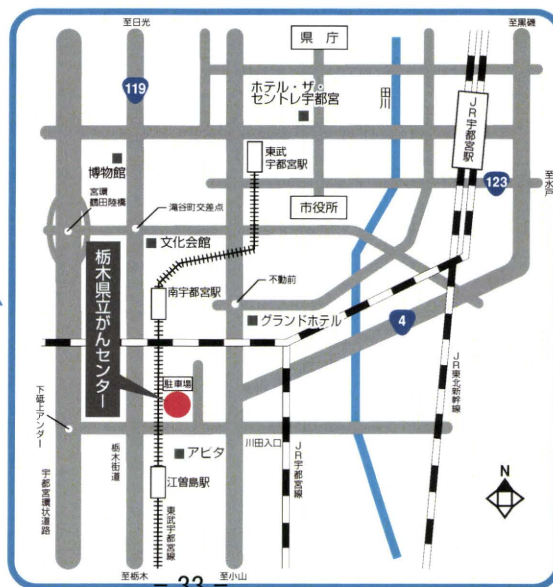
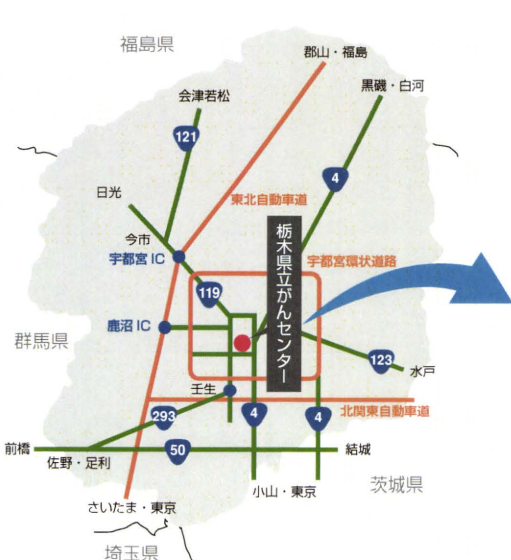
氏名			
住所	〒		
連絡先	TEL ( ) ( ) ( )	FAX ( ) ( ) ( )	
属性	*該当する箇所に○をつけてください 一般 医療従事者 → 勤務先名 _____		

### 参加要項

- 定員 150名  
(定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 参加費 無料
- 申込期限 平成22年10月22日(金)

- お問い合わせ・申込先  
栃木県保健福祉部健康増進課生活習慣病医療担当  
TEL 028-623-3095 FAX 028-623-3920  
栃木県立がんセンター相談研修課  
(がん情報・相談支援センター)  
TEL 028-658-6484 FAX 028-658-5297

### アクセスマップ



#### 栃木県立がんセンター

〒320-0834

栃木県宇都宮市陽南4-9-13

電話：028-658-5151

#### 交通機関

- JR宇都宮駅から関東バス「江曾島行(11番のりば)」に乗り「がんセンター前」で下車。横断歩道渡る。徒歩1分(所要時間約25分)
- 東武江曾島駅東口から関東バス「JR宇都宮駅行」に乗り「がんセンター前」で下車。徒歩1分(所要時間約5分)

# アンケート用紙

本日は講演会にご来場くださりまして、ありがとうございます。今後こうした取り組みを県内、さらには全国に向けて拡げていくために、本日のご意見・ご感想などをお聞かせください。

## 1. 講演会の「内容」について

数字に○をつけてください

1 . . . . .	2 . . . . .	3 . . . . .	4 . . . . .	5
全く役に 立たなかった	あまり役に 立たなかった	普通	役に立った	大変 役に立った

**【ご意見・ご感想】**

## 2. 講演会で、新しく知った点や興味深く感じた点があればおしえてください。

⇒⇒裏面に続きます⇒⇒

3. 講演会で、もっと詳しく知りたかった点や深く議論したかった点がありましたらおしえてください。

4. 「栃木県版 地域の療養情報」に取り入れてほしい情報やテーマなどありましたら、こちらにお書きください。

5. 現在または過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方はいらっしゃいますか。

- いる (当てはまるものすべての番号を○で囲んでください)
- ▶1. 現在、自分ががんにかかっている
  - ▶2. 過去に、自分ががんにかかっていた
  - ▶3. 現在、家族にがんにかかっている人がいる
  - ▶4. 過去に、家族にがんにかかっている人がいた
  - ▶5. 家族ではないが、現在、周囲にがんにかかっている人がいる
  - ▶6. 家族ではないが、過去に、周囲にがんにかかっている人がいた
  - ▶7. 自分や家族などが、がんではないかと疑っている
- いない

6. 講演会をどのような方法でお知りになりましたか。当てはまるものを○で囲んでください。

ポスター	チラシ	新聞	広報	県のホームページ
がんセンターのホームページ	メール	テレビ	ラジオ	
人から聞いた (			) から	
その他 (			)	

以上です、ご協力ありがとうございました。

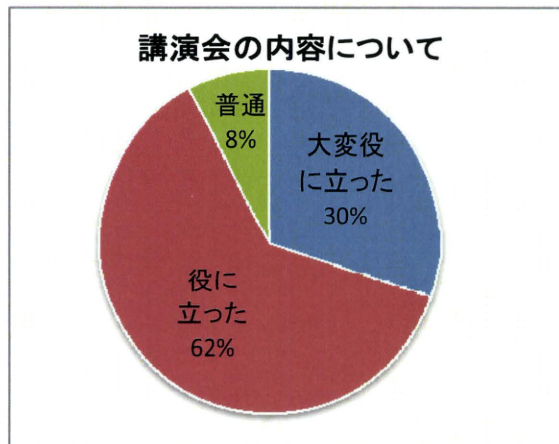
共催 栃木県

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）地域におけるがん対策の推進と患者支援に資する介入モデルの作成に関する研究班

## ◎11/7がん患者支援公開講座のアンケート結果

## 1. 講演会の「内容」について (n=76)

大変役に立った	23
役に立った	47
普通	6
あまり役に立たなかった	0
全く役に立たなかった	0



## 【ご意見・ご感想】

・さまざまな立場の方のお話が聞けてよかった。

・基調講演はそれぞれの立場からいずれも分かりやすい内容であった。ただすばらしい内容であっても大幅な時間超過はいかがなものか。あらかじめ講演者に時間管理の徹底をお願いされたい。

・「患者必携」の目的は、あくまで患者各々が自分の病について必要な情報を集めるためのものであり、医者と患者とのコミュニケーションを媒介し、患者自身が学び成長してクオリティオブライフを高めていくための第一歩であると感じた。

・様々な立場の方々の話を聞くことができ、とても良い勉強になりました。家族にもがんになった人がいるので、当時の本人の気持ちも「こんな感じだったのかなあ」と思うところもあって、今後、もっと学んでいかなければならないという思いが強くなりました。これから医療者になるにあたって、どのようなことに気をつけていかなければならないのかということも考えさせられたので、しっかり考えていきたいと思えます。

・がんに対し、県がこんなにも積極的に活動していることを知らなかったもので、それを知ることができて良かったです。患者必携もぜひ見てみたいと思いました。

特に体験者や患者の視点をよく知った話は良い。示唆に富む。

・身近なところにごがん患者がいないため、今までこのテーマについて深く考えたことがありませんでした。がん患者支援について様々な対策が進められていることを知ることができ、とても勉強になりました。

・普段は聞けないようながんの体験について聞けたり、実際、県で行っている様々な取り組みについて知ることができました。がんの治療をした体験談などは、その人にしか分からない気持ちや考えがあり、とても勉強になりました。また、日本だけではなく、海外のがんについての取り組みについても知ることができてとても良かったです。

・欧州の「患者さんとの勉強会」はとてもいいものだった。私の家族や周囲の人にがんになった人がいなく、がんに対する知識があまりないので、患者必携が早く欲しいです。患者必携を売るのではなく、配布という形をとる方が多くの人に目に触れるのではないのでしょうか。私は本を読むのがあまり好きではないので、本屋さんにもほとんど行きません。高齢者の方もわざわざ本屋さんまで足を運ぶのが大変だと思います。

・身近にごがん患者がいない、患者側の意見を聴くことがなかったが、最後、講演者はがん患者の目線で様々な説明をしてくれたのでためになった。

・「患者必携」というものがあることを知らなかったもので、その知識を得ることができたというのが一番大きかったと思います。また、その活用の仕方等の説明もあり、これからさらに改良されていく、良いものであるという印象を受けました。祖母ががんで亡くなったこともあって、がんに対する関心が高いので、これからも学んでいきたいと思いました。

・日本とアメリカ(外国)でがんに対する社会体制、思いが全然違うことに驚いた。「congratulations cancer survivorship」という言葉に衝撃を受け、また好感を持った。日本も早くそんな雰囲気になればと思った。

・正しい情報を得ること、コミュニケーションの重要性がよく分かった。県の取り組みとして、患者必携というものがあることが分かったので、情報源の1つとしては利用していきたいと思いました。

・自分ががん患者になったら、周囲の人ががん患者になったらどうするか(どうなるか)、地域でどう対応してもらえるか(患者必携の配布、相談支援センターの紹介など)など、とても参考になる話が聴けて勉強になりました。

・患者必携というもの自体知らなかったもので、どのようなものなのかとても興味を持ちました。

<p>・がん必携のできる経過、実際の使い方について詳しい説明を聞くことができて良かった。特に医療機関のワーカー、当事者から見た利用方法は聞くことができて良かった。がんを患ったPtの立場での話は、気持ちの揺れ動き、思い等、聴くことができて理解が深まった。患者同士のつながりの大切さ、海外での活動もわかり、もっと知りたいと思った。</p>
<p>・読売新聞の本田さんのお話、とても楽しかったです。ありがとうございました。</p>
<p>・実際ががん患者必携等を見て、講演を聞きたかった。</p>
<p>・患者必携とは、情報がまとめられたもので読むだけのものかと思ったが、これを使って医師に相談できたりすることを知り、より重要性が感じられた。</p>
<p>・今回の講演で患者必携について知り、そこからがんの罹患者が年々増加しており、がん情報について詳しく知りたいと思っている人々が増えているということであらためて学ぶことができました。また、実際に本田さんの話を聞き、患者さんのがんに対する考え方は、健康な人が思っているよりもいろいろと先まで考えたりして精神的にもきつかったりするのだということがわかり、もっと親身になって面と向かうことも必要なのだなと考えさせられました。</p>
<p>・本田麻由美さんの話には特に感銘を受けました。Advocacyの意味についても教えられました。</p>
<p>・自分のがんと向き合っている(生の声)がとても良かったです。</p>
<p>・普段から医療について、もし自分が、身内が病気になった時のためにもいくつかの治療法を選べるように多くの知識を入れておきたいと考えています。今回の「患者必携」により、自分たちで選択できること、参考にさせていただきたいと思います。</p>
<p>・がん患者である本田記者の講演には、重みがあり共感するところがあった。患者自身が「がんについて、社会とのかかわりについて、学ばなければならないこと。医療の進歩にはありがたく思っており、携わっている方には感謝です。</p>
<p>・講演を聞いてとてもためになりました。体験談を聞く機会はあまりないので聞いて良かったです。</p>
<p>・難しくて最初ちょっと意味が分かりませんでした。ご自身の体験談は聞いて良かったです。本田さんががんばってください。私も勉強がんばります。</p>
<p>・また市民向けの講演をやってください。</p>
<p>・患者必携については興味がありましたので、現状を把握できてよかったです。</p>
<p>・学生という立場で参加させていただいて、とてもよい経験ができました。</p>
<p>・地域の話も大切ですが、肝心な治療等の最新ニュースも話して欲しい部分もあった。あれほど、患者必携を押し付けてのに配られないというのはちょっと…。インターネット、携帯を使えない人にとって、あまり役に立たないかもしれないなど感じた。ですが、それ以外の分かりやすい資料などは良かった。</p>
<p>・今まで知らなかった知識を知ることができました。様々な立場の方の話が聞いてこれから役立つ情報ばかりを聞けました。がん検診を受けようと思いました。</p>
<p>・いろいろな立場の方からの講演があり、いろいろな情報が得られてとても勉強になった。がん必携についての説明があり、今後患者に説明するなど、またガイドの紹介などに役立てると思った。</p>
<p>・ジャーナリストの本田さんのお話、とても参考になりました。患者サロン、患者会についてですが、会が長く続けられることが大切です。そのためにはある程度行政のお力が必要だと思います。患者会の代表も生活があり、代表を務めることが困難な時があると思います。「会の方で何とかしましょう」ということだけでなく、一緒に考え、お力添えをしていただけたらと思います。それが支援、協働なのは？ 「患者必携」ですが、病院だけではなく、各市町の図書館に置くのもいいのでは？宇都宮市立図書館には医療情報コーナーがあり、患者会資料なども揃っております。</p>
<p>・「必携」の現物を拝見。印象は「厚さと文字ばかり」を感じさせるものでした。「IT(ipadのような)」を活用していくと、印刷物より安く用意できるかもしれませんね。</p>
<p>・私は将来医療従事者になる者ですが、がんに関してほとんど学んだことがなかったので、今日この講演会に出席してみて少し役に立ったことが多かったです。特に患者必携のことは今回初めて聞きました。本当に患者さんのがんに対する心配事というのは耐えなく大変だと思いました。そんな患者さんに対して患者必携は良いものだなと思いました。患者さんと医師とのコミュニケーションは、治療を進める上で必要不可欠なので、その助けをしてくれる患者必携はこれからも役に立つと思います。今日、学んだことは家族でがんにかかっている人や私たちに役立つと思いました。</p>
<p>・実際の乳がん患者である本田さんの話が一番心に残った。</p>

<p>・患者必携というものを初めて知った。ぜひ一度どのようなものか見てみようと思った。</p>
<p>・この講演会で初めて「患者必携」のことを知りました。</p>
<p>・本田さんは実体験に基づいているので、とても勉強になりました。</p>
<p>・本田麻由美さんの体験、ジャーナリストの立場からの話が分かりやすくとても良かった。Cancer Survivorship</p>
<p>・患者必携はあくまで「手段」であることを忘れてはいけなかったと思います。医療機関として最もあつてはいけないことは、「はい、これをわたしましたからね。だからこれから先はあなたがこれを見て全て決めてください。活用できないのは、自分が悪いんですよ」という患者、家族へ全てを自己責任として処理してしまうことだと思います。これについては何より、医師の意識改革も必要ではないかと、「渡して終わり」ではなく、「渡したことが出発」と考えていかなければならないと思いました。</p>
<p>・ありがとうございました。特に本田様のお体験を通した講演は引きつけられました。実際のがんに罹患されている高齢者の方だったら・・・？なかなか前向きにというのは難しいのが現状下とも思います。患者さんが高齢である場合、夫婦2人暮らし、もしくは独居の方も多いです。「必携」も実際にその方たちが活用できるようにさらに検討していく必要があると感じました。</p>
<p>・自分ががんになって2年。自分の治療をすすめるにあたって、本当にいろいろな本を読みました。インターネットでもいろいろ調べてみました。ただ、調べれば調べるほど、正反対の情報も出てきてしまったり・・・。集めた情報の中から選び取る難しさを感じたことを思い出しました。 「患者必携」のようなまとまったものができるというのは、とても良いことだと思います。今も治療中ですので、今後、役立てていきたいと思っています。</p>
<p>・病院に勤務している者ですが、「緩和ケア」や「がん治療」など言葉で聞くのみで、実際のところはよく分からない状況で参加しました。国や県の大枠の施策から当事者の各立場の方の話まで聞くことができ理解が深まりました。</p>
<p>・訪問看護をしています。国や県の動向に疎かったことへの反省と、患者の想いは置き去りの看護であったことへの反省をしました。患者必携をがん患者がバイブルにするのであれば、私たち支援者側もバイブルを熟知し、患者と対等にコミュニケーションがとれるように学びたいと思いました。 今回は読売新聞で体験談を読ませていただいていた本田記者にお会いしたい気持ちが強く参加しました。記者魂が感じられる講演に、私も専門職としてもっともっと学んで患者の役に立ちたい、サバイバーシップの一員になりたいと思っています。</p>
<p>・患者必携は診断を受けた方にも必要ですが、検診で精密検査となった人にも必要と思いました。とても参考になりました。実家の母のがんが発見された時、自分の居住する地域でなかったため、情報を得るのにあせりを感じました。各都道府県のものを知ることができるのによいと思いました。</p>
<p>・第1部基調講演でもっと地域のことが知りたかった。具体的な話が聞けて良かった。特に地域の実情、現場の苦労が伝わってきたのが良かった。本田さんの講演は単独の公演にしたのが良かった。</p>
<p>・あらためて主体は患者さん自身であること、患者さんの声を聞くことの大切さを感じることができた。様々な情報がある社会、だからこそ自分が本当に必要な情報を手に入れるのが難しい。患者必携の活用がよいコミュニケーションの手段になればよいと思います。私はがん患者でも家族でもないが、援助する者としてぜひ手にしたいと思いました。</p>
<p>・再認識させていただいた。</p>
<p>・「患者必携」というものを今回初めて知りました。様々な立場からの話が聞けて良かったです。</p>
<p>・本田さんの講演は具体的にとても身近に感じました。もっと時間を長く、別の機会にでも伺ってみたいです。</p>
<p>・自身の体験や日本以外の国の状況等、本田記者の講話はとても興味深かったです。もう少し時間をとって話してもらえたら良かったと思います。診療所や訪問看護ステーション、ケアマネの支援のじっさいなどについても取り上げて欲しいです。</p>
<p>・高齢者のがん患者で行き場がないのが現状です。在宅と言われていても家で介護していくことは大変だと思いますが、よりよく生きるためのケアをすることは大変難しいことだと思います。医療者と患者、家族のギャップが少しでも縮めることができるように、これから何かできることを考え、現場で生かしていきたいと思っています。研修会は有意義でした。本田先生のお話はまたお聞きしたいです。患者必携ダウンロードして活用していきます。</p>
<p>・実際に患者として、いろんな体験をしながら仕事をしている本田ジャーナリストの方の話は、はっとする事が多く、とても勉強になりました。もっと長い時間聞きたかったです。</p>

<p>・体験者の生の声と、日本以外でのがんのとらえ方の変化を知ることができたことが良かったです。今回だけでなく、いろいろな人に知ってもらえ、輪が広がるといいなと思いました。本当に使用できる必携にして欲しいと思います。</p>
<p>・本田麻由美さんの講演はとても具体的で、分かりやすく、身近に感じられました。私に今できることは、がんについて、がん支援について学ぶことです。少しでも人の役に立つよう支援できるようがんばろうとすることができました。今日、本田さんのお話が聞けて、本当に良かったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・いろいろな立場の人から説明を受けて大変参考になりました。</p>
<p>・いつも感じるが、こういう講演会は成功例やこうあるべき論的な内容が多いが、今回は具体的なことで良かった。</p>
<p>・基調講演は4人の方が、ご自身のお立場で話され良かったです。ジャーナリストの本田麻由美さんは、ご自身の体験を踏まえ、熱い講演だったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>・本田さんのお話は良かった。地域で支える、県よりもう少し小さい市町村や区での支え合いかと思って参加した。</p>
<p>・話がとても丁寧で分かりやすかったです。「患者必携」が医療人、患者ともに役立つということでこれから進んでいくことを望みます。患者との対話の架け橋になるという点は、特に自分の中で良いなと思いました。</p>
<p>・本田さんのCancer Survivorshipについての講演を拝聴して、現実的には、日本ではまだまだなのかなあと感じました。今後、地域で広められたらと痛感しております。ひとりひとりの考えが違う部分がありますが、地道に行動していけると良いですね。</p>

## 2. 講演会で新しく知った点や興味深く感じた点

<p>・“「患者支援」、主語は患者自身でもある”にハッとしました。</p>
<p>・患者の視点でものを考える重要性和理解した。</p>
<p>・海外における「Cancer Survivor」の考えは、がんに対して積極的に向き合っていくすばらしい考えであると感じた。医師は治療法をあくまで提示するだけ、最後に決めるのは患者自身、よって情報の取捨選択のための技術が必要。</p>
<p>・患者必携について初めて知りました。身近に手にとってみれるようになると、健康な人の勉強にもなるのかなと思いました。Cancer Survivorの医師については、こういう考え方があるんだということで勉強になった。</p>
<p>・海外でのがんに対する取り組み。がん患者に対する教育が必要ということ。がん患者やその家族、友人、その他の全ての人でより良い社会をつくらうこと。</p>
<p>・アドボカシーの3段階</p>
<p>・がん患者必携については、その存在も内容も初めて知りました。もし自分や家族などががんになった時に活用していきたいです。</p>
<p>・患者必携という言葉の意味やこれに基づいての取り組みについて。パンフレットは要点がまとまっているので、とてもいいと思いました。</p>
<p>・患者必携を作っていること。</p>
<p>・患者必携というものがあること自体知らなかったが、今日の講演でそれががん患者に対して大変役に立っていることを知った。</p>
<p>・「患者必携」というがん患者向けの冊子があるということを知りました。また、患者も学ぶということが大切であり、情報を得て、選択をするということにも技術があるということが分かりました。</p>
<p>・まず、がん患者必携の本の存在を全く知らなかったです。またがん等に対する法律が約3年前まではなかったことも知らなかったし、なかったことに驚いた。学校で、日本とアメリカの情報公開の社会的な制度が全く異なり、日本も外国に早く追いつかなければならないとは習っていたのですが、3年前にスタートしたとは！！知りませんでした。もっと早くスタートしていたと(勝手に)思っていたので…。でも説明していたように、とりあえずスタートしたとしてこれから頑張っていけば良いと思います。</p>

<p>・患者必携の利用の仕方、患者自身がどう現実に立ち向かい病気を理解するか。実際に身内にがんになり、術後の病院通いに私自身が付き添うことも多々あるのですが、このような取り組みがあるとは知らなかった。患者はどのように情報を得たらよいのか、不安になるものだし、わからなければ医者の話だけ頼りになるため、自身が学ぶためにもこのような患者必携が存在することを早く知って良かったなと感じた。</p>
<p>・日本ではがんに関して悲観的に捉えがちですが、海外では前向きな取り組みが多々あることを初めて知りました。</p>
<p>・がん患者に対する各地域の取り組み。患者必携の存在やその利用方法、反響など。がん実際に罹患した際に、医療機関がどのように対応しているかについて。(特に私自身が将来医療に携わりたいと考えているので興味深かったです。)</p>
<p>・Cancer Survivorについてとても興味深く感じました。</p>
<p>・がん必携について</p>
<p>・本田さんの講演「学びと協働」、アドボカシー</p>
<p>・医療従事者だけでなく、患者側も学びながらがん向き合わなければならないということを知った。</p>
<p>・患者さんが直面する問題として、physical pain, mental pain, social painの他にspiritual painというものもあることを知ることができました。また、世界にはCancer Survivorshipという考え方があるということも知ることができ興味を持ちました。</p>
<p>・単なるがんについての知識普及ではなく、社会ががんについての認識を深めることで、このような講演会が果たす役割があると感じた。</p>
<p>・インターネットの声は正しいの、悪い声もある。知らないことがあったので本当に良かったです。</p>
<p>・今まで自分もNetによる情報に偏っていた事に気づかされました。なかなか人に聞きづらかったり、時間に制限される中、もっと周りの人を頼りながら、取り組む事の大切さを考えさせられました。感謝です。</p>
<p>・海外でのがんに対する考え方。患者、医療者、家族などの協働が当たり前になっていることは今回紹介されるまで知らなかった。</p>
<p>・日本は海外に比べると、がん患者のとりえ方が違うと感じました。日本も海外のようになればいいなと思いました。</p>
<p>・海外は進んでいてとても驚きました。</p>
<p>・患者必携という言葉を知ったので、とても興味深く感じました。</p>
<p>・「がん患者必携」についての活用目的が分かって良かったと思う。</p>
<p>・患者支援、患者が主役、患者の学習と協働など、本田麻由美さんのまとめがすばらしく、経験の中からお言葉から学ぶことが多かったです。Survivor Ship</p>
<p>・まずがん患者必携については初めて知りました。私たち何も知らない人にとっては情報供給できる1つの手段として役立つものだと思います。</p>
<p>・患者必携を配布している県</p>
<p>・本田さんのお話で、外国の方のがんに対する考え方が素晴らしいと感じた。</p>
<p>・キャンサー、サバイバーシップ、これは後で詳しく調べてみたいと思います。非常に興味深いです。「がん医療(本来はそれを含めて医療全てだとは思いますが)に国境はない」・・・印象に残った言葉です。</p>
<p>・Cancer Survivorの話は2回目です。若い年齢でがん罹患された方であれば参加できるのかな？</p>
<p>・海外のがん患者さんを取りまく状況等興味深かったです。「アドボカシー」は初めて聞きました。レジメがあつたら良かったかも・・・。</p>
<p>・「患者必携」の存在も初めて知りました。その上手な使い方のアドバイスがあり、興味深く感じました。医療従事者でありながら、がんにはあまり関心が薄かったように思い、あらためて「国民病」と感じました。新しい情報を正しく患者さんに伝える必要があると思いました。本田さんのお話は全般に理解しやすく、また今後も自分なりに勉強したいと感じました。</p>



<p>・患者必携を医療者としてどの程度活用できるのか、インターネットを見たいと思います。「がん」でも治療の段階や体調で求めるケアが違うこと、(身体が辛い、心が辛い等)医療者だけで学んでも分からないことがあり、当事者(がん患者や家族)から得る学びが大きいことが分かりました。</p>
<p>・生のがん患者さんの声が聞けてとても学ぶことができました。</p>
<p>・ネット情報の信頼性について、日ごろ疑問に感じていました。情報の収集の仕方も正しくとらないと混乱をさらに深めることと思いました。</p>
<p>・世界の様子をTVではなく話で聞いたこと。          ・「Survivor」とは告知を受けた人が生涯を全うするまでを言うこと。          ・社会的偏見(「かわいそう、お気の毒」米で1980年代)について、日本でも同じ事を聞いたので興味を引いた。          ・質の確保は、自分自身の意欲が左右するが、治療(抗がん剤、放射線、手術等)で意欲も抑制されたとき、意欲の光を見つけ、どう動かすか、どう回復させるか。</p>
<p>・Cancer Survivorship          ・治療の選択=生き方の選択</p>
<p>・アドボカシーに3段階あるということ。その持っている意味や使い方。</p>
<p>・患者必携は医療者や介護関係者とのコミュニケーションツールとして活用することで、お互いの理解が深まると思いました。病院の医師や看護師はもちろん、関係者にも周知していく必要があると思いました。必携は有償であることを初めて認識しました。値段は分かりませんが、経済的に厳しい人が多い中でどの位の方が購入されるのか、自分で購入しなくてはならない手間など、今後、課題もあるのでは。</p>
<p>・患者自身のアドボカシーについて</p>
<p>・サバイバーシップにとっても興味があり、勉強になりました。患者や家族の気持ちを考えた援助について、がんの告知後の患者の気持ち、治療選択による責任の重さ=生き方の選択、重いなどと思います。</p>
<p>・がん患者でもある本田様の話の内容に興味を持ち、自らの疾患に対する考え方、精神面での実体験を聞き、現在、サポート側の立場にいる自分の対応について学びがありました。がん患者必携の内容を入手し、活用できればと思います。</p>
<p>・キャンサーサバイバーシップの考え方。          ・ぜひ日本でも広く浸透して欲しいと思った。同じ時間をいかに生きるかを考えることで逆に病気をやっつける力が生まれると感じた。</p>
<p>・キャンサーサバイバーという考え方があるということです。</p>
<p>・「患者必携」の冊子は初めて知りました。患者のための冊子はこれまでに目にしていませんが、素晴らしいと思いました。</p>
<p>・がんは学ぶ、協働すること。身近なサポーターを見つけること。</p>
<p>・Cancer Survivorshipのことは知っていましたが、私たち患者も愉しく生きようと思いました。</p>
<p>・「必携」自体初めて知った。</p>
<p>・「がん患者必携」というものが作られていると初めて知りました。祖父、祖母ががんになってしまった時のためになると感じました。</p>

### 3. 講演会で、もっと詳しく知りたかった点や深く議論したかった点

<p>・最新のがん治療方法を教えていただきかった。</p>
<p>・がん患者が退院する前にカンファレンスを積極的にもって欲しい。「明日退院が決まった」「今日、昨日退院してきました」と家族からのTELで急に動くことがあった。(地域包括職員です。)</p>
<p>・本田麻由美さんには患者会でぜひ話を聴かせていただきたい。</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師と患者との信頼関係を構築するには。</li> <li>・セカンドオピニオンを希望すると不機嫌になったり、嫌悪な関係になることがまだまだ多いということを解消していくこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口がどんな所で、どんな事を具体的にしているのか、どんな相談内容が多いのかなど。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・この必携の周知方法について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養を選び、訪問看護を利用する患者はターミナル期がほとんどであり、「帰るなら今」の時期に慌ただしく生活が始まります。利用者や家族と信頼関係を築く間もなくお亡くなりになることが多く、私の看護の振り返りもままなりません。相談室やがん専門看護師との上手な情報交換方法を学びたかったのですが、ケースバイケースとなると事例検討会等があるといいのかもと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本田さんのお話にあった「患者としてのコミュニケーション能力」というところ。自分の聞きたいことをどうきくか？(主にDrに)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、実際に「必携」を使うことになったらどうか？栃木の現状では「必携」の活用は難しい点があると思われま</li> <li>す。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「患者必携」のもっと詳しい内容</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・横のつながりができて本当に良かった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の会について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目の見えない患者さんなどにはどうするのだろうと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者必携は、いつから、いただけるのでしょうか？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者自身は、自分の現状を理解することは大切だと思うのですが、この必携をその家族に情報を与えるためのものとして扱う方が良いのでは？</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者がどのような支援(がん患者に対する)をしているのか。がん患者の声、それに対し私たちはどのような講堂を起こすべきか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Tour of Hopeについて</li> </ul>

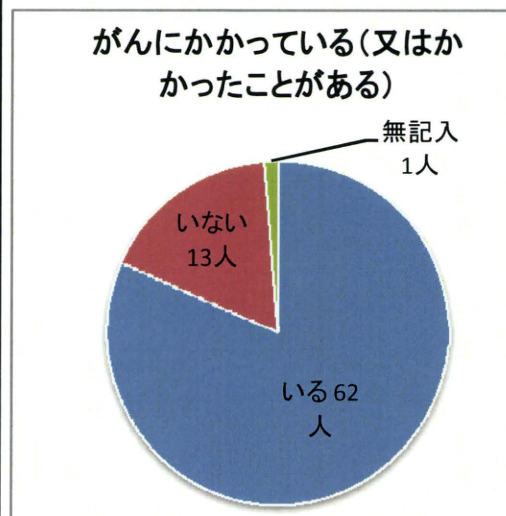
#### 4. 「栃木県版 地域の療養情報」に取り入れて欲しい情報やテーマなど

<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県でもがんについての広報や最新の治療方法を情報提供して欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「必携」を見ていないのでよく分からないが、在宅療養について</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん検診、これから治療する患者への栃木県内の病院の情報→部位別がん手術数、相談支援センター、緩和ケアの所在など</li> <li>・がん患者、家族の会の情報(ネットができない人を基本に)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護、ヘルパー等のサービスができること、していることについての説明</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナル期を含め、レスパイトを受けられる情報があるとありがたいです。ぜひ、レスパイトできる施設の具体的な内容を提供していただきたいと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケアについて、どこでどのような内容が受けられるのか。特に在宅で療養する場合に訪問診療してくれる医療機関、処置内容、料金など、またどのような手続きで紹介してもらえるのか。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者必携の入手方法などを詳細に。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各々のがん検診を受けて本当に精密検査が受けられる医療機関を載せてください。</li> <li>・患者会の情報</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・緩和ケア病棟や一時入院(レスパイト)、受入れ状況や取り組み方がタイムリーに分かると思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に密着した内容→在宅療養について、在宅医、ケアマネ、訪問看護ステーション、ヘルパー等の情報。</li> </ul>

・治療以外での患者さんの体験談など
・地域や病院ごとに設置されている患者さんの会
・ストーマ用トイレマップ等、患者会紹介
・医療の専門、大学校、大学などと連携し、最近のニュースや時事問題など連絡を密にする。
・取り入れて欲しいというよりは、がん患者やその家族、医療従事者以外にも情報を広め、一般化してほしいと思いました。
・一番情報が欲しいのは、あまり一般的でないがんについての治療法を調べることが難しく、現在も悩んでいます。もし、このがんであれば、どこの病院なら相談に乗ってもらえる等のヒントだけでもあればと思っています。
・がん診療連携拠点病院で、地域の療養情報がどのように収集公開されているのか知りたい。
・簡単な各病院の治療法及びスタッフ数等
・各地域で開かれている患者サロンの情報
・正しい情報を提示したインターネットのホームページがあるのなら、“http//～”各がんの種類ごとに記載する等すれば良いのでは・・・?と思います。
・医療圏のこと、二次医療圏にあるのは分かったが、一次や三次はあるのか。患者の立場では何の関係があるのか。
・治療に係る費用と国からどのような支援があるのか(金銭的に)

5. 現在又は過去に、ご自身、ご家族や周囲にがんにかかっている方の有無 (n=76)

いる	62
現在自分ががんにかかっている	7
過去に自分ががんにかかっていた	7
現在家族ががんにかかっている	12
過去に家族ががんにかかっている人がいた	28
家族ではないが、現在、周囲にがんにかかっている人がいる	14
家族ではないが、過去に周囲にがんにかかっている人がいた	22
自分や家族などが、がんではないかと疑っている	2
いない	13
無記入	1



6. 講演会の周知方法(複数選択あり)

ポスター	9	チラシ	26
新聞	10	広報	0
県のホームページ	0	がんセンターのホームページ	3
メール	3	テレビ	0
ラジオ	0	人から聞いた(先生、職場の上司等)	23
その他(学校等)	5		

# 公開講座の記録媒体による情報普及



## DVDの配布

- ・健康福祉センター
- ・相談支援部会参加医療機関
- などを通して患者・県民へ周知

# 「がん情報」とちぎ